



PALIS'S TEXT WORKS

バスマニア物語

© *Palismiki*

○ラジオドラマ○

『バスマニア物語』

◆登場人物◆

1 : レイコ (21)

2 : 陽 一 (28)

3 : 運転手 (52)

4 : ガ ヤ 複数人

作:ぱり~みき

1

バスの車内

OS. E. …バスのクラクション～車内音

陽 — 「今日は疲れたね」

レイコ 「でも本当に楽しかった。食事も美味しかったし」

陽 — 「本当？」

レイコ 「うん、凄く楽しかった。
なんだか子供みたいにはしゃいじゃった」

陽 — 「レイコすごかったもんな～。あれだけ遊べばそりゃ疲れるか」

レイコ 「よーちゃんだって、人のこと言えないでしょお？(笑)」

陽 — 「まあな。でも、帰りがバスなんて…さらに疲れちまうよな」

レイコ 「ううん、あたしバス好きだし、気にしないで」

陽 —M『レイコは本当に優しいな……』

陽 — 「あ、そうだ！レイコ、来週ディズニーランド行かねえ？」

レイコ 「えっ？ディズニーランド？」

陽 — 「行きたがってたじゃん」

レイコ 「あたしが？そうだったけ？」

陽 — 「言ってたじゃん？東京の方へ行きたいって…。
なんで？って聞いたら、ディズニーランドとか行きたいって」

レイコ 「ああ～『とか』ね。よーちゃん、お休み取れるの？」

陽 — 「大丈夫、パッチリ！休み取ってあるんだ」

レイコ 「嬉しい♪行こう！行こう！楽しみ～♪」

陽 — 「そうだな……早速、来週の日曜日のフリーパス予約して……」

レイコ 「うふふっ……それじゃ、
来週は土曜日からずっとよーちゃんと一緒だね」

陽 — 「えっ？と、泊まり？(ちょっとにやけて)
べ、別にそれでもいいけど」

レイコ 「ね、ねっ、何時に待ち合わせしようか??
……そうねえ～午後10時半に高岡のターミナルに集合して
……(楽しそうに)」

陽 ー 「えっ?た、ターミナル?」

レイコ 「午後11時発の東京行き夜行バスに乗れば、
朝の6時50分には東京着だから結構時間的にも余裕あるよ」

陽 ー 「えっ?よ、夜10時半に待ち合わせって??」

レイコ 「えっ?だって、東京行くんでしょ?ディズニーランド……」

陽 ー 「いや、そんなに慌てなくたって今からチケット予約すれば
安心だって」

レイコ 「だ、だって……早く行かないと間に合わないよ?
いっぱい並んじやうし」

陽 ー 「だからって、夜行なんか使うこと無いだろう??
それにファストバス取るから安心しなって」

レイコ 「それに東京着いてからだってバスの乗り継ぎとかもあるし、
結構時間過ごしちゃうかも知れないし……
そ、それに夜行の方が寝てるうちに着くからオトクよ♪」

陽 ー 「そのことなんだけどさ…オレ、レイコに話があるんだ?」

レイコ 「な、なに?急に改まって……?」

陽 ー 「オレとレイコがはじめて出会ったこの路線バス……
俺たち付き合ってからこいつにはいろんな所連れて行って
もらったよな」

レイコ 「そうだね……」

陽 ー 「それもオレが不甲斐無いばかりにレイコにまでそんなに
気を使わせてたってことだもんな……本当にありがとう」

レイコ 「えっ?……そんなこと無い、よーちゃんのせいじゃないよ」

陽 ー 「だけど、そんな生活も今日で終わりだ!」

レイコ 「えっ?どういうこと?……もしかして、別れる……とか?」

陽 ー 「ちゃんと話聞けよ。実はオレ……今度車買うんだ!」

レイコ 「……えっ?」

陽 ー 「ずっと真面目にバイトして金溜め込んでたんだ♪
ようやくオレもマイカーが手に入る!」

レイコ 「……そ、それって」

陽 一 「今までバスや電車乗り継いでレイコには大変な思いさせたけど、もう心配するな。
これからはオレの車でどこへだって簡単に……」

レイコ 「(遮るように大声で)それって！ちょっと待ってよ！！」

○乗客がざわつく(レイコの大声に周りがざわめく)

運転手 『(スピーカーからの声で)お客さん、周りの方へ迷惑ですので御静かに……』

レイコ・陽一 「す、すいません……」

陽 一 「なんだよ急に？」

レイコ 「えっ？…えっ？ちょっと待って、車って……どんなの??」

陽 一 「そ、そりゃさすがに新車は無理だから中古だけど……
結構かっこいいんだぜ」

レイコ 「カッコイイって…スペースランナー？レインボーⅡ？
……エルガシリーズ？
それともエリッセ・ジャーニーランク？(若干パニックってる)」

陽 一 「スペース…えっ？いや、違うけど……それ外車？どこの車？」

レイコ 「ええっ！？ち、ちょっと待ってよおっ！？なんで急にそんな
……あたしに相談も無く」

陽 一 「いや、驚かせたかったんだよ。
相談って、そんなに大した問題でもないかと……」

レイコ 「たいした問題よ！車なんて……
高価(タカ)いじゃない！バスで充分だよ、もったいない」

陽 一 「そんな気にすんなって、こう見えてオレ結構頑張って貯金
してんだぜ」

レイコ 「……ね？考え直そう？今ならまだ間に合うわ。
あたしなら全然大丈夫だから……」

陽 一 「ははは、お前のそういう奥ゆかしい所がオレは大好きなんだ
よな～」

レイコ 「何笑ってるのよっ！第一車なんて維持費が掛かるのよっ！
それはもう……年間で大金が山ほど飛んで行くんだから」

陽 一 「なんとか頑張るよ」

レイコ 「そんな頑張り過ぎて体壊しちゃうかも知れないじゃないっ！
あたし、心配になっちゃうよ」

陽 一 「大丈夫だって」

レイコ 「ダメっ！！(強く)」

陽 一 「解ったから、お前の優しさはよおく解っ……」

レイコ 「(陽一の台詞食い気味で)ダメ！ダメっ！！
車なんて絶対にダメっ！！(大きな声で)」

運転手 『(マイク)お客さん。お客さん。他の方々の迷惑ですから』

陽一・レイコ 「す、すいません……」

レイコ 「(小声で)アア…マイクワオ…(ちょっとウツトリと)」

陽 一 「え？」

レイコ 「……いや、と、とにかくダメだよ～」

陽 一 「何でそんなに頑なに否定するんだよ？」

レイコ 「だ、だってえ……事故とかしたら死んじゃうんだよ」

陽 一 「オレ、こう見えてゴールド免許だし」

レイコ 「う～～んんっ……なんで?? どうしてなの?
バスじゃダメなの??
今まで通りバスで……たまに電車とかも適当に使って
いろんなトコ行けばいいじゃない？」

陽 一 「オレ思ったんだけどな。バスの路線じゃ行けるトコなんて
たかが知れてるだろう？第一電車だって、本当に目的が無き
ゃ乗らないし……」

レイコ 「いいじゃないの、目的地まで私達を運んでくれるのが交通機
関の最大の目的よ」

陽 一 「いや、そういうこと言ってるんじゃないくて……
あっ！そうだ！レイコいいか？車ならもっと二人っきりの時
間が持てるんだぞ」

レイコ 「そんなこと言って……あっ！解った！
よーちゃん、もしかしてエッチなこと考えてるでしょうっ！？
助手席のあたしに [ピーー] させて、 [ピーー——]
とかさせるのが目的でしょうっ！？もー！！フケツっ！！」

陽 一 「ちっ、ちがうっ！ちがうっての！なんでそうなるんだっ！？」

- レイコ 「バスだって、二人の世界には入れるじゃない？
お客さんがいるか？いないか？の違いよ！」
- 陽 一 「そこが一番デカイだろ？みんないっぱいいるぞ？
みんな見てるでしょうが！？」
- レイコ 「見られてる方がイイなんて！やっぱりっ！
よーちゃんってフケツっ！！」
- 陽 一 「な、なに言ってんだ？！
なんでオレが車買うってだけでこんな大問題になるんだよ！
金の事だって…高価いレストランだってアクセサリーだって
しっかり受け取ってくれたじゃんかよ！？
なんで車だけダメなんだよ！」
- レイコ 「じゃあなんでバスがダメなのよっ！？」
- 陽 一 「なんだ？おまえバスがイイのかよっ！？」
- レイコ 「そうよっ！！バスがイイのよっ！！」
- 陽 一 「えっ……ええ~~~~~っ！？」
- レイコ 「この路線バスという数坪の空間の中には人生が詰まっている
のよ！ そもそもバスの歴史を紐解いたら1919年…大正
8年に厚木ー平塚間で……」
- 陽 一 「(レイコの講釈を止めるように)ちよっ…ちよっと待てっ！！
ちよっと待てっ！！だってお前……今までそんなこと一言も
言わなかったじゃないかよ！」
- レイコ 「よーちゃんは解ってくれてると思ってたわ……いつも私に付
き合っバス移動してくれてたし。ココで意見の一致が見ら
れないとすると……あたしたちもう終わりね」
- 陽 一 「な、なんでそうなるんだよっ！？」
- レイコ 「そもそもあたしだって、ずっと我慢してたんだからっ！
なんで電車なんて…あんな味気無いアルミの箱に押し込めら
れて移動しなきゃいけないのよ！」
- 陽 一 「どういうことー！？」
- レイコ 「全部バスでいいじゃないっ！！
いい？来週のディズニーランドだって、高岡のターミナルか
ら夜行に乗って午前6時半に東京着、そこから都営バスに乗
って錦糸町駅前まで行く。錦糸町前から乗り換えて葛西駅
前へ、葛西駅前から新川口経由で浦安橋。浦安橋から徒歩移
動で浦安駅。浦安駅から東京ベイシティ交通に路線チェンジ
して舞浜行きに乗れば、ちゃああと東京ディズニーリゾート
へ到着するんだから！」

- 陽 一 「西村京太郎っ！？ めっちゃまどろっこしいわ！！
んっ！？…ちょっと待てよ！確か夜行バスは東京の前に新宿
に停まったぞ。確か、新宿からディズニーランド直通のバス
が出てるんじゃないのか？」
- レイコ 「ふっ……これだから素人は(嘲笑)」
- 陽 一 「ダメなの？」
- レイコ 「バスはバスでも違うのよ！イイッ！？
新宿から直行で出ているのはJR傘下の路線バスなのよ！
そんな鉄道の軍門に下ったバスなんてバスの風上にも置けな
いわよっ！！ たとえ、最新式MD92TJエンジンを積ん
でるスペースランナーだったとしても、JRバスだけには乗
りたくないわっ！！」
- 陽 一 「どんなこだわりだっ！？」
- レイコ 「拘りって大事よ、それが有るか無いかで人生の楽しみ方が違
うもの」
- 陽 一 「へえ……って納得しちゃったよ」
- レイコ 「ねえっ！それより～せっかく関東行くなら、どうせだったら
東京駅からはとバスに乗ってみたい？東京見学がてら♪
今はとバスで使ってるドイツ製のドレクメラー・メテオー
ルE440型の排ガスの香りが凄くイイって言うし……、
あ、そのまま八王子の交通博物館に行って、過去の車輛なん
かも見たいわね♪」
- 陽 一 「ちょっと待て浦安どこいった！？」
- レイコ 「国際興行も見にいきたいし」
- 陽 一 「どこだよっ！？」
- レイコ 「埼玉？
知り合いが国際興行の車輛に忘れ物したら、
凄く親切に対応してくれたっていうし……」
- 陽 一 「ミッキーどうすんだよっ！？」
- レイコ 「ちょっと寄り道♪アハっ☆」
- 陽 一 「アハっ☆じゃねーよ！
そんな事してて浦安到着するの何時になんだっ！？」
- レイコ 「う～～ん……午後五時くらいかな？
もうちょっと早い方がいい？」
- 陽 一 「当然だろうっ！？」

レイコ 「ん～、じゃあ国際興行はバスかぁ……」

陽 ー 「いや、バスかぁ…じゃなくて」

レイコ 「別にいいじゃないの～、5時くらいに着けば夜の、ホラ……あの、なんとかパレードとかキラキラしたのでも見てテキトーに帰れるじゃない」

陽 ー 「キョーミなしか？
ディズニーのメルヘン世界にまったく興味無しかっ！？
だいたいパレードなんか見たら帰れないだろうっ！？」

レイコ 「えっ？パレードって5時47分までに終わんないの？」

陽 ー 「一時間も居る気無いかいっ！？」

OSE：時刻表をパラパラとめくる音

レイコ 「困ったなぁ…17時47分までにナントカなれば…ホラ、この路線で……」

陽 ー 「え？……なんで群馬経由なんだよっ！？
ち、ちょっと待てっ！！(SE：ペラペラとページをめくる音)
こ、ここ！ここ見ろっ！！ここ！！
富山からディズニーランドまで直通の高速バスがあるじゃないかっ！？」

レイコ 「チッ…バレたか。。。」

陽 ー 「なに？行きたくないの？ディズニー」

レイコ 「だあって～、あんな黒いネズミッコロ見ても何にも楽しくないんだも～ん」

陽 ー 「怒られるぞ、お前。。。マジで」

運転手 『お客さん…お客さん、他の御客サマの迷惑になりますから』

レイコ 「ああ…マイクロフォン～(ウツリ) あ、運転手さん♪
一回喋らせてもらえませんか？」

陽 ー 「おいおいっ！よしなさいっ！」

運転手 『お姉ちゃん、バス好きかい？』

レイコ 「はい！
特に日産ディーゼルと日野の車輛が趣があって好きです♪」

運転手 『おっ、通だねえ～』

レイコ 「でも、旧式車輛も好きなんですよ。
さすがにボンネットタイプには乗ったことありませんけど」

運転手 『なんだい？
ボンネットに乗らないでバスマニアってのは悲しいねえ？
知らないのかい？いま、由布院から湯平温泉場までの区間で、
43年式のいすゞBXD30型が期間限定で走ってるんだよ』

レイコ 「えええっ！？本当ですかっ！？
よーちゃん！来週ディズニーとりやめ！湯布院行こう！！」

陽 一 「えええええ〜〜〜っ！？」

レイコ 「BXD30型って超カワイイですよね〜☆」

運転手 『オレなんか、現役で走ってる頃見てたからねえ〜
あの旧式ディーゼルの排ガスのニオイ……今でも覚えてるよ』

レイコ 「解りますっ！！
あたしも学校帰りの自転車でよく意味も無く、バスの後ろと
か走ってディーゼルの排ガスを胸いっぱい吸ってました♪」

陽 一 「ヘンタイかっ！？」

レイコ・運転手 『ディーゼルをバカにするなっ！！！』

陽 一 「(小声もしくはOFF気味で) えええ〜っ」

レイコ 「(陽一無視で)それに冬場はバスの後ろ走っていると、暖かいし。
なんだかバスって、大きな温かみがありますよね〜」

運転手 『へえ〜若い女の子でそこまでバスを見切ってるなんざ珍しい
じゃないか？』

レイコ 「大好きですからっ！あ、写真もありますよ。。。ホラ」

陽 一 「何盛り上がってるんだっ！？」

運転手 『ほほお〜北陸のバス会社だいたい周ってるじゃないか？
お姉ちゃんなかなかやるねえ』

レイコ 「弱輩者ですから、気合いで乗り切ってます♪」

運転手 『気に入ったっ！！お姉ちゃん、今日は特別だ
車内マイクで喋らせてやるよ』

レイコ 「ホントですかあっ！？嬉しいい〜♪(本当に幸せそうに)」

陽 一 「いいのか？これでいいのか？」

レイコ 『ア〜、ア〜…コホ(咳払い)
え〜次の停留所は下瀬です。どうぞ皆さま御忘れ物の無いよ
うお気を付けてください(バスのアナウンスっぽく)』

運転手 「もう、路線の停留所も完璧だねえ〜♪」

レイコ 「はいっ♪」

陽 一 「ちょっと！イイんですか！？こんなことさせてっ！！」

OSE : ブー——ーッ
(バスの降車ボタンの音。台詞食い気味でテンポ良く)

陽 一 「えっ！？レイコ！？押しちゃったっ！？
(周りに説明する風)…いやっ、皆さん、違うんですよ、
これは彼女がふざけてですねえ……」

レイコ 「ふざけてなんか無いわ」

OSE : バスのブレーキ音&ドアの開く音
(キキィッ……プシュウウ〜っ)

レイコ 「ね？」

陽 一 「ね。って……あ、ここ俺達が降りるトコだ」

OSE : バスを降りる足音。

陽 一 「(ちょっとした間)ほら、レイコ…何してんだよ、降りるぞ」

レイコ 「……………いや」

陽 一 「はあっ？」

レイコ 「あたし降りない」

陽 一 「何馬鹿なこと言ってんだ、ホラ」

レイコ 「やだ！（マイクロフォン用意）」

レイコ 『(マイク声)私、やっぱり自分に正直に生きることにした！』

陽 一 「……はあ？」

レイコ 『あたしより車を愛するよーちゃんとはもう付き合えない。
あたしは今日から、あたしと路線バスを愛してくれる
この運転手さんと一緒に生きていきます』

陽 一 「…あの一？もしもし？」

OSE : ざわざわしている音。口々に客が文句を言う。

客 A 「ったく、降りるなら早く降りろよっ！後がつかえてんだよ！」

陽 一 「あ、すいませ……え？……ええっ！？」

○SE：複数の足音がバスから降りる。

陽 ー 「えっ？……ち、ちょっと、ちょっと！レイコ、レイコオ！」

レイコ 「よーちゃん、今まで本当にありがとう。
貴方と過ごした日デ(にちで) RM252 ノンステップ型の
日々……とても楽しかったわ(少し寂しげに)」

陽 ー 「レイコ……」

運転手 「出発進行(何事も無いかのよう)」

レイコ 『(マイク声)出発しんこ〜う♪(楽しげに)』

○SE：ぶしゅうううっ……プップ〜ッ プロロロロロ…
(バスの扉が閉まる音→クラクションと共に発車する音)
○一陣の風が木々を揺らす音(ざざあっ……)

陽 ー 「……………にちで？」

陽一 M 『それ以来、彼女と二度と会うことはなかった。
ちなみに、[にちで] が日産ディーゼルの略だと知ったのも
しばらく経ってからのことだった……』

ー 終わりー